

佐賀県 様



快適・安全なテレワーク環境を 自動認証と暗号化で全職員に提供 必要な場所で自動動作を実現

職員のテレワークを積極的に推進している佐賀県では、PCをモバイルタイプに更新するタイミングにあわせて、職員のテレワーク環境を大幅に改善。従来のVDI (仮想デスクトップ) を用いたテレワーク環境から、APRESIA Systemsが提供するハイブリッドワーク・アプライアンス『KOKOMO』を活用した新しいテレワーク環境に移行した。KOKOMOにより、必要な場所で自動的に認証、暗号化が行われ、高いセキュリティを保ちながら、全職員が快適かつ安全にテレワークできる環境が整備された。この新しい環境は利便性と業務効率を向上させ、職員はより柔軟な働き方を実現できるようになった。

導入背景

- 業務継続、働き方改革、子育て支援を推進するテレワーク環境の改善
- 既存VDIによるテレワークは動作が重く、利便性とコスト面に課題
- 職員が意識せず利用できる、簡便で運用負担の少ない環境の必要性

導入効果

- KOKOMOで端末認証と暗号化を自動化し、安全なテレワーク環境を実現
- 同時接続ライセンスにより、ユーザー課金より高いコストパフォーマンスを提供
- ソフトSIM認証方式でID/パスワード入力不要のスムーズな端末認証を実現

佐賀県

県庁所在地

〒840-8570
佐賀県佐賀市城内1丁目1-59
ホームページ二次元コード



人口

787,076人 (2024年12月1日現在)

概要

九州の北西部に位置し、東は福岡県、西は長崎県に接し、北は玄界灘、南は有明海に面する。2024年には「SAGA2024国スポ・全障スポ」を開催。スポーツ行政にも注力している。



■佐賀県様の評価ポイント

ポイント
1

ゼロタッチ認証

- ソフトSIM認証で簡単ログイン
- パスワード、ID入力の手間をゼロに

ポイント
2

軽快な動作

- 庁内のようにスムーズ
- VDIや閉域SIMを超えた快適さ

ポイント
3

あらゆるネットワークに対応

- 利用する環境を選ばず対応可能
- Wi-Fiやキャリア回線など、幅広い接続



ソフトSIM認証により、PC起動と同時にゼロタッチでログインが可能。庁内にいるかのようにスムーズな接続を実現し、VDIや閉域SIMを超える快適な動作を提供する。また、Wi-Fiやキャリア回線など、あらゆるネットワーク環境に対応し、外出先や庁外でも安定した接続を維持する。

VDIを利用したテレワーク環境に課題、 全職員のPC更新にあわせ環境を改善

2020年のコロナ禍より、感染症防止の観点から多くの企業・組織でテレワークが導入された。地方公共団体も例外ではなく、在宅勤務やリモートワークの導入が進んだが、佐賀県が県庁職員向けにテレワーク環境を導入したのは2008年頃のこと。他の地方公共団体に先駆けた取り組みである。

テレワーク環境の導入にはさまざまな目的があるが、佐賀県のテレワークには次のような目的があった。行政デジタル推進課 課長の土井 慎一氏は振り返る。

「災害時などにも業務が継続できるようにBCP(事業継続計画)としての目的もあれば、職員の多様な働き方を支援する、働き方改革の意味もあります。さらに近年では、小さなお子さんがいる職員のために子育て支援の役割も果たしています」(土井氏)。

このようにして佐賀県では、タブレットやビデオ会議システムを導入し、VDI(仮想デスクトップ)により全職員が庁外からも安全に庁内システムにアクセスできる仕組みを構築してきた。

しかし、VDIによるテレワークにはいくつかの課題があったという。行政デジタル推進課 副課長の島川 尚久氏は「既存のVDIは動きが遅く、コスト面での課題があった」と述べる。また通信の遅延が発生した際に、県庁側のサーバーやアプリケーション、回線のどこに原因があるのかの特定が困難だったとも指摘している。

こうした状況を受けて、佐賀県では、全職員用のPCをデスクトップPCからモバイルPCに更新するタイミングにあわせて、テレワーク環境も一から見直し、改善を図ることにした。

PoC(検証環境)を経て、 KOKOMOの採用を決定

そこで行政デジタル推進課ではさまざまなテレワークソリューションを調査し、検討を行った。VPNや閉域SIMを利用したソリューションなども候補にあがったが、動作速度が不十分であったり、コスト面で課題があったりと、要件を満たすものがなかなか見つからなかった。行政デジタル推進課 係長の草場 希跡氏は、「さまざまなソリューションを調査しましたが、その多くが起動の際にIDとパスワード入力が必要で、職員が運用するには手間がかかる

と感じました」と語る。

そのような中で出会ったのが、APRESIA Systemsが提供するハイブリッドワーク・アライアンス『KOKOMO』である。KOKOMOは、端末にソフトSIMをインストールすることで、必要な場所で自動的に動作するリモートアクセスソリューションだ。端末側での特別な機構は一切不要で、端末認証や暗号化が可能である。専用のKOKOMOコア(サーバー)をユーザー環境に設置することで利用が可能となり、外部からの接続でもセキュリティを担保できる。

導入前にはPoC(検証環境)を設置し、機能や使い勝手を検証した。「KOKOMOは、さまざまな回線を選択できる点が優れています。これまではデスクトップPCで有線に繋がった状態でしか仕事ができなかったのが、モバイルPCを持参するだけで打ち合わせなどが可能になり、仕事の幅が広がりました」と検証の感想を語るのは、行政デジタル推進課 主事の岡本 峻平氏。

さらに、島川氏は「複数のソリューションを比較する中で、コストパフォーマンスの面でもKOKOMOは非常に優れていました」と評価する。

使いたい場所で自動的に動作する KOKOMOを高く評価、 APRESIAの寄り添った対応も好印象

PoCでの検証後、入札を経てKOKOMOの採用を決定。電気通信事業を幅広く手掛けるニシム電子工業株式会社と連携し、導入を進めた。当初はKOKOMOのコアサーバーアライアンス2台(アクティブ・アクティブ構成による冗長化)と、1,000同時接続ライセンス(SIM発行数10,000)を導入していたが、その後コアサーバー4台と2,500同時接続ライセンスに拡張した。さらに、テレワーク用に新規のインターネット回線も複数用意した。

現在、KOKOMO環境は大きな問題もなく安定稼働している。土井氏は「出先機関も含む佐賀県全職員がKOKOMOを利用できる環境を構築しました。私も出張の際などによく利用していますが、庁外での利用に最適です」と評価する。

利用する職員からも、「以前のVDI接続よりも使いやすい」と声があがっていると島川氏は述べる。特に、自動判別機能を活用して「使いたい場所で自動的に動作」を実現し、時間や場所に制約されることなく、職員自ら働き方を工夫し、選択できる環境が高く評価されているという。



佐賀県
行政デジタル推進課
課長
土井 慎一氏



佐賀県
行政デジタル推進課
副課長
島川 尚久氏



佐賀県
行政デジタル推進課
情報監理担当
係長
草場 希跡氏



佐賀県
行政デジタル推進課
主事
岡本 峻平氏

APRESIA Systemsでは、提案から構築、運用に至るまで積極的に支援を行っており、その対応について草場氏は、「PoC段階から対応は丁寧で、難しい専門用語もかみ砕いて分かりやすく説明してくれるなど、私たちに寄り添った対応をしていただきました」と評価している。

最後に島川氏は次のように語る。「公共自治体のネットワーク構成は現在のαモデルからα'モデルやβモデルへの変化が進んでいます。その動向を注視しながら、今後ネットワーク構成が変化した際にも、安全で快適なテレワーク環境を提供できるよう取り組んでいきます」

KOKOMOは、佐賀県庁の働き方に堅実な革新をもたらし、その影響は確実に広がり続けている。

KOKOMO導入事例
はこちら



構築業者:ニシム電子工業株式会社
APRESIA Systems株式会社

※APRESIA、KOKOMOは、APRESIA Systems株式会社の登録商標です。